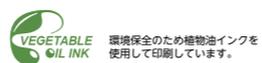




株式会社ジョイフル

〒870-0141 大分県大分市三川新町一丁目1番45号
TEL.097-551-7131(代)



BUSINESS REPORT

2011



第37期 中間報告書
2011年1月1日～2011年6月30日
証券コード: 9942





代表取締役社長
穴見陽一

未曾有の大災害のなかで実感した当社の存在意義。 より強い使命感を持って地域社会に貢献してまいります。

本年3月24日の株主総会にて取締役役に就任し、直後の臨時取締役会にて代表取締役社長に就任いたしました、穴見陽一でございます。

株主の皆様におかれましては、平素より当社発展のために様々な形でご尽力賜っておりますこと、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。さて、ここに第37期(2011年12月期)の中間報告書を作成いたしましたので、ご高覧いただけますよう、宜しく申し上げます。

まず、東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。また、皆様の安全と被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

3月11日の大震災により、当社におきましては宮城県内14店舗が被災いたしました。しかし、お客様に怪我なく速やかに避難いただけたこと、また、従業員全員の無事が確

認されましたことが不幸中の幸いでございました。

その後、交通インフラやライフラインの復旧と併せ、3月30日より5月23日にかけて、14店舗中、13店舗の営業を再開させていただきました。しかし気仙沼店だけは津波により店舗が完全に水没し、さらに地盤沈下によって前面道路が満潮時に冠水すること、また周辺地域が津波被害の最も激しい地域であったため、復旧の目処がまったく立たないことから、残念ながら閉店という決断をさせていただきました。

しかし、震災発生直後より、地域の皆様から営業再開を望む多くの声をいただきました。あらためて従業員一同、私共のお店が地域の皆様に愛されていることを実感し、その感謝を胸により強い使命感を持って地域社会に貢献していこうと、決意を新たにさせていただきました。

また震災に際し、創業者である穴見保雄氏が1億円の義援金を寄付されたことを受け、また、宮城県内の約400名の当社従業員が様々な形で被災支援をいただいていることを鑑み、当社も1億円を義援金として寄付させていただきましたことをご報告申し上げ、株主の皆様のご理解を賜りたいと存じます。

さて、当社の当中間期の状況は、第1四半期(1月～3月)におきましては、「贅沢ビーフシチュー」や「みすじステーキ」等の成功により増収増益を達成することができましたが、3月11日の震災以降、自粛ムードから3週間ほど全国的に売上が大きく落ち込むだけでなく、高単価商品の支持が減速する傾向が顕著になるなど、マーケットに大きな変化が起こっていることを実感いたしました。

このような変化を受け、第2四半期(4月～6月)は「とろけるチーズインハンバーグ」を核とした低価格ゾーンを強化した商品展開を行い、また、初夏の猛暑にも助けられ、なんと

が売上高と利益を確保することができました。

今後の日本経済は、福島原発の安定化や被災地復興の遅れ、また全国の原子力発電所の点検停止後の再起動の目処が立たないことによる電力供給不足への懸念と、激しい円高などの要因から、全く見通しの利かない状況でございます。

このような経済環境のなかで、基本的には慎重で手堅い経営をこれまでどおりに進めるべきだと考えておりますが、この数年間出店が足踏みを続けているなかで、諸事情による閉店により店舗数が減少していること、また、借入金の返済が大幅に進んだことから、来期からの出店に向けた準備を進めていく予定でございます。

最後になりましたが、株主の皆様には今後とも当社の経営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



気仙沼店の外観



気仙沼店の店内



がれき処理などのために集まった従業員



気仙沼店従業員の寄せ書き

「東日本大震災」義援金のお礼

店舗店頭で受付しておりました義援金につきまして、右記の通りご報告させていただきます。

皆様からあたたかいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

義援金総額について 総額 31,566,256円

お客様よりお預かりしました義援金は、日本赤十字社を通じて被災地にお届けし、被災者の救援活動や被災地の復興支援のために活用させていただきました。

連結業績ハイライト



※2011年12月期については、「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用した影響額を織り込んだ予測となっております。

商品力、提供品質の向上とともに、 営業及び管理業務強化への取り組みを推進。

東日本大震災の影響及び世界的な原油価格の高騰といった社会状況下、「お値打ち感を主とした商品の提供」と「お客様視点に立ったサービスの実践」に取り組みました。



「商品開発プロセスの強化」による 商品力及び提供品質の向上。

フェア等の展開とともに、商品開発プロセスの強化による商品力及び提供品質の向上を軸に、自社工場製品比率の向上と食材の絞り込みに努めました。特に「贅沢ビーフシチュー(冬フェア第3弾)」「みずじステーキ(春フェア第2弾)」は大変な好評をいただき、毎年好評の「ふわふわかき氷」についてはフレーバーを追加して4種類にするとともに「アイスのせ」もお選びいただけるようにしました。



QSCの改善と 自立した強い店長の育成を推進。

QSCの改善と、「自立した強い店長の育成によるお客様に喜ばれる店作り」に努めました。その一環として、「店舗オペレーション・サービスレベルの向上」のための従業員教育に力を入れるとともに、店舗内外の環境整備のために既存店舗の改修に取り組みました。



業務効率の向上と、徹底した コストコントロールによる利益の確保。

業務効率の向上と、徹底したコストコントロールにより、利益確保に努めました。また、パート・アルバイト採用の強化など、適正な人員配置及び販管人件費の抑制に努めるとともに、出張や広告宣伝活動の見直しなど、コントロールに努めました。

全店 売上高(前年比%)の月次推移 ● 当社 2011年 ■ ファミリーレストラン 2011年平均 (日本フードサービス協会発表)



下期の具体的な取組み

さらなる収益力向上に向け、 各施策に継続して取り組みます。

上期の施策で得られた効果をより強固なものにすべく、引き続き各施策を継続します。

さらに下期においても、メニュー改定及びフェア等の提案、マーケティング調査の継続、情報発信などで、お客様の購買意欲向上に向けた施策を積極的に展開していくとともに、「自立した強い店長の育成によるお客様に喜ばれる店作り」を推進し、利益確保のための業務効率の向上とコストコントロールに努めます。

また、従業員のコンプライアンスの強化に努め、さらなる社内体制整備にも力を入れてまいります。



グランドメニュー、モーニング・ランチメニューを軸に
充実したフェア等の施策を展開しました。

冬フェア
第3弾
1月11日より
贅沢ビーフシチュー
登場!



洋食ファン待望の、ビーフシチューとハンバーグが
コラボした贅沢な2商品が登場!
身も心も温くなる本格洋食をご提供しました。

3月8日より
春の新グランドメニュー
こだわって、さらにおいしくなりました。



人気商品のとろけるチーズインハンバーグ、
カットステーキを大幅にブラッシュアップ!!
当社の「おいしさ」へのこだわりが沢山詰った
春の新メニューです。

5月10日より
モーニング・ランチメニューを
リニューアル



暑くなる季節に向けて、さっぱり食べられる
大根おろしをトッピングしたメニューが新登場。
また、お客様に人気の高いメニューも曜日を変更、
新たに楽しめる曜日別のラインナップとしました。

春の「新! おいしさ宣言。」

春フェア
第1弾
2月1日より



さらにおいしく、さらにお得になった
とろけるチーズインハンバーグ/カットステーキ!
春の「新! おいしさ宣言。」

春フェア
第2弾
3月8日より
逸品「みすじステーキ」
堂々完成!!



牛1頭から約2kgしかとれない希少部位、
赤身肉で特有の食感が特徴の「みすじステーキ」を
ご提供しました。

4月12日より
待望のハーブパウンダーステーキ!!
第6弾



昨年200万食が完売した
大人気シリーズ。大満足
の230gのリップロースを
はじめ、女性、お子様にも
おすすめ、150gの「プチ
ポンドステーキ」もご用
意しました。

初夏の贅沢

夏フェア
第1弾
5月17日より



・野菜たっぷりの「ジェノバ風チーズインハンバーグ」
・さっぱり涼味の美味しさの「ぶっかけとろろうどん」
・スタミナ満点のピリ辛お肉「醬だれ焼肉膳」
初夏に嬉しい3タイプのメニューをラインナップ
しました。

真夏の美味

夏フェア
第2弾
6月14日より



・「とろけるチーズインハンバーグ on サラダ」
・「チキンサルサの鉄板ジャンバラヤ」
・「豚しゃぶサラダうどん」
真夏の美味3タイプのメニューをラインナップ
しました。

5月17日より
美味しさととことんこだわった

ふわふわ かき氷



ジョイフルの3つのこだわり。

- ①かき氷専用の不純物のない上質な氷
 - ②一つずつ手作り
 - ③大満足のボリューム
- こだわりの「ふわふわ」をご提供しております。

連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当第2四半期末
	2010年12月31日現在	2011年6月30日現在
資産の部		
流動資産	5,609	5,133
固定資産	22,369	22,017
有形固定資産	17,047	16,976
無形固定資産	92	86
投資その他の資産	5,229	4,954
資産合計	27,979	27,150
負債の部		
流動負債	8,394	7,938
固定負債	7,576	7,719
負債合計	15,971	15,657
純資産の部		
株主資本	12,008	11,492
資本金	1,596	1,596
資本剰余金	2,390	2,390
利益剰余金	11,792	11,276
自己株式	△3,770	△3,770
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△0	0
評価・換算差額等合計	△0	0
純資産合計	12,007	11,493
負債・純資産合計	27,979	27,150

Point 資産の部
 総資産は、前連結会計年度末に比べ8億2千8百万円の減少となりました。流動資産は前連結会計年度末に比べ4億7千5百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金の増加、有価証券(譲渡性預金)の減少、原材料及び貯蔵品の減少によるものです。固定資産は前連結会計年度末に比べ3億5千2百万円の減少となりました。これは主に投資その他の資産その他(繰延税金資産)及び減価償却による有形固定資産の減少によるものです。

Point 負債の部
 流動負債は前連結会計年度末に比べ4億5千6百万円の減少となりました。これは主にその他(未払費用)の増加、買掛金の減少、未払法人税等の減少によるものです。固定負債は前連結会計年度末に比べ1億4千3百万円の増加となりました。これは主に資産除去債務の増加、長期借入金及び社債の減少によるものです。

Point 純資産の部
 純資産は、前連結会計年度末に比べ5億1千4百万円の減少となりました。これは主に「資産除去債務に関する会計基準」の適用に伴う四半期純損失及び配当金の支払による利益剰余金の減少によるものです。

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
	2010年1月1日から2010年6月30日まで	2011年1月1日から2011年6月30日まで
売上高	29,315	29,255
売上原価	10,330	10,181
売上総利益	18,984	19,074
販売費及び一般管理費	17,865	17,500
営業利益	1,119	1,573
営業外収益	69	47
営業外費用	110	74
経常利益	1,078	1,546
特別利益	0	4
特別損失	20	985
税金等調整前四半期純利益	1,058	565
法人税、住民税及び事業税	289	496
法人税等調整額	141	290
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△221
四半期純利益又は四半期純損失(△)	627	△221

Point 売上高
 東日本大震災により宮城県内14店舗の営業を一時休止せざるを得ないというマイナス要素はありましたが、各種商品施策やQSCを中心とした営業活動に対してお客様からご支持いただいた結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は292億5千5百万円(前年同期比0.2%減)となりました。

Point 特別損失
 その主な内訳は、震災による損失1億7千6百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額8億5百万円です。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

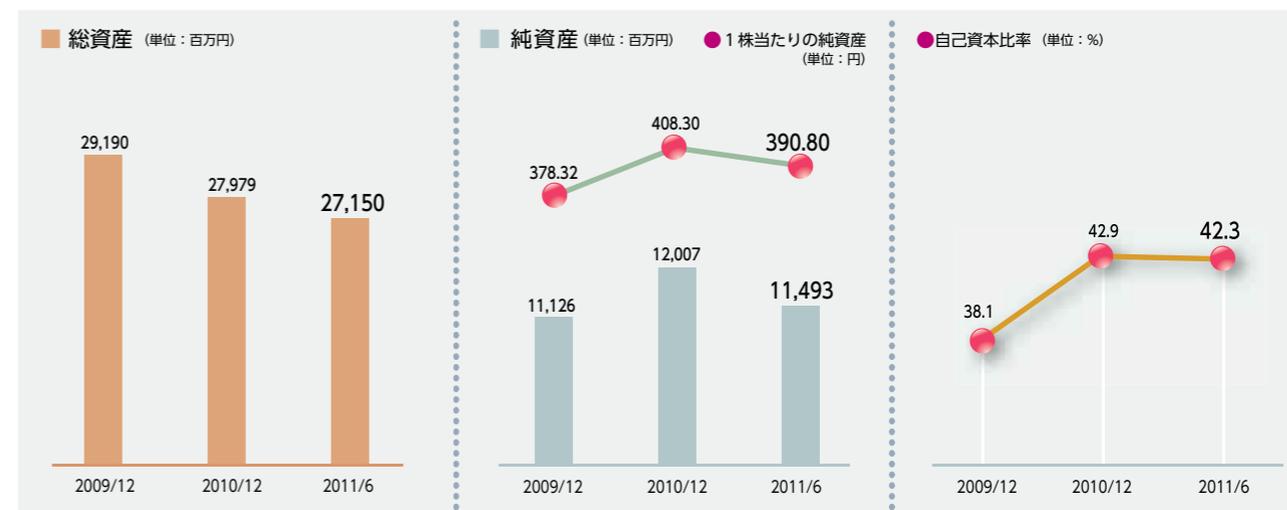
(単位:百万円)

科目	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
	2010年1月1日から2010年6月30日まで	2011年1月1日から2011年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,441	1,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	530	△445
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,546	△1,111
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	425	△552
現金及び現金同等物の期首残高	2,622	3,258
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,047	2,705

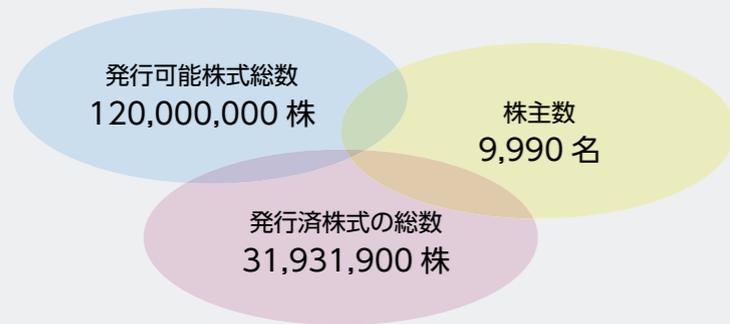
Point 営業活動によるキャッシュ・フロー
 営業活動の結果得られた資金は、10億4百万円(前年同四半期比30.3%減)となりました。収入の主な内訳は、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額8億5百万円、減価償却費5億9千9百万円、税金等調整前四半期純利益5億6千5百万円、たな卸資産の減少額3億3千万円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額8億5千万円、仕入債務の減少額5億7千7百万円です。

Point 投資活動によるキャッシュ・フロー
 投資活動の結果使用した資金は、4億4千5百万円(前年同四半期は5億3千万円の収入)となりました。主な内訳は、定期預金の預入による支出3億円、有形及び無形固定資産の取得による支出1億9千1百万円です。

Point 財務活動によるキャッシュ・フロー
 財務活動の結果使用した資金は、11億1千1百万円(前年同四半期比28.1%減)となりました。主な内訳は、長期借入金の返済による支出7億2百万円、配当金の支払額2億9千3百万円、社債の償還による支出1億1千5百万円です。



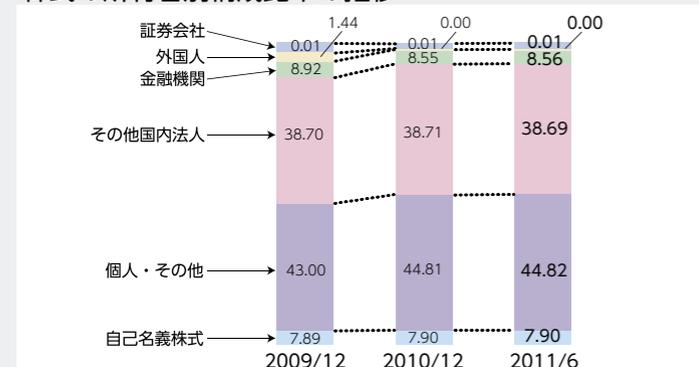
株式の状況



株式の所有者状況

	2009/12 (2009年12月31日現在)		2010/12 (2010年12月31日現在)		2011/6 (2011年6月30日現在)	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	8	5,946	8	4,406	8	4,120
外国人	5	462,400	1	100	2	300
金融機関	17	2,851,062	14	2,733,362	14	2,734,762
その他国内法人	73	12,358,766	78	12,362,366	80	12,357,066
個人・その他	8,840	13,731,328	9,688	14,308,932	9,885	14,312,872
自己名義株式	1	2,522,398	1	2,522,734	1	2,522,780
合計	8,944	31,931,900	9,790	31,931,900	9,990	31,931,900

株式の所有者別構成比率の推移



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで		
定時株主総会	3月		
基準日	定時株主総会の議決権	12月31日	
	期末配当金	12月31日	
	中間配当金	6月30日	
	(中間配当を実施する場合)		
単元株式数	100株		
株式名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社		
同事務取扱所	〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (証券代行事務センター) TEL. 0120-78-2031(フリーダイヤル)		
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店		
公告の方法	電子公告の方法により行います。 但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。		
公告掲載URL	http://www.joyfull.co.jp/		
上場取引所	福岡証券取引所		

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

●「配当金計算書」について
配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

会社概要

(2011年6月30日現在)

社名	株式会社 ジョイフル
本社所在地	大分県大分市三川新町一丁目1番45号
大分工場	大分県大分市三川新町一丁目1番45号
大分配送センター	大分県大分市下郡中新地3410-1
熊本工場・配送センター	熊本県菊池市袈裟尾字下大迫445-4
愛知工場	愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1-17
創業	1965年6月
創立	1976年5月
従業員数	1,147名 上記従業員の他にパートタイマー7,008名 (8時間換算)を雇用しております。
資本金	15億9,659万円
主な事業内容	「ファミリーレストラン ジョイフル」のチェーン展開
連結子会社	株式会社ジョイフルサービス

店舗一覧
店舗ネットワーク
711店
うちFC店舗52店
※()内はFC店舗

